

検証 国民から見えない日本のマスコミの特異な体質と構造

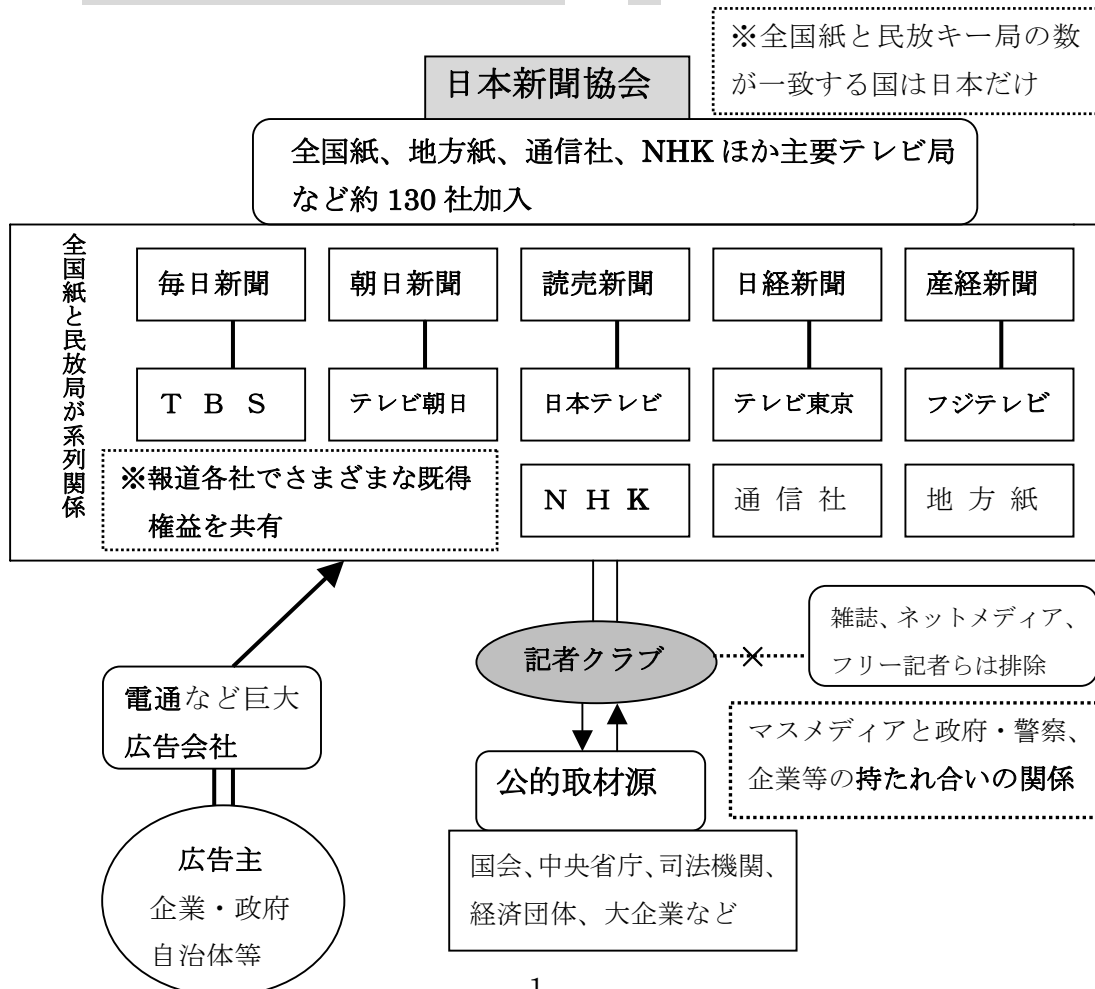
かみで 上出 義樹

日頃、個別のニュースを通じ日本のマスコミ(マスメディア)の問題をウオッチしています。今回はそのマスコミの体質・構造そのものを図表付で解説します。

記者やジャーナリストの「プロフェッション」(職能)とは、公共的なサービス(情報等)を提供する知的専門機能であり、こうした仕事に就く人は、人々の内面や人生に深くかかわり、単なる利潤追求のビジネスとは異なる職責を担うと、されています。

しかし、日本のマスコミには国民がよく知らない独特の問題と構造があります。①業界団体の日本新聞協会②雑誌やフリーの記者は加入できない排他的な記者クラブ制度③新聞とテレビの系列関係一等、社論の違いを超え既得権益を守る、極めて日本的な談合の仕組みがあり、これを「情報カルテル」と呼ぶ研究者もいます。福島原発事故で「ただちに健康に影響はない」との発表をそのまま報道し国民の不信を買ったマスコミは実は、**最も保守的な業界**の一つなのです。

<図> 日本のマスメディアの特異な構造 → 「情報カルテル」と呼ぶ研究者も



日本のマスコミの体質・構造と問題点の要約

前ページで取り上げた事柄を含め、マスコミの根本問題を整理しました。

- 新聞のほか主要テレビ局やNHKも加盟する業界団体の**日本新聞協会**の存在。たとえば、大物政治家と親密な関係を築いた読売新聞グループのトップ・渡辺恒雄氏は新聞協会の政治的役割を象徴する人物。これとは別に、全国の民間放送各社でつくる**日本民間放送連盟**がある。
- 新聞やテレビなどのいわゆる既存メディアだけが加入でき、雑誌やネットメディア、フリーの記者らを排除する**記者クラブ**制度。政府や警察・検察、大企業など、主要な情報源との持たれ合いの関係が指摘されている。
- 全国紙とテレビの5大キー局を中心にした、日本特有のクロスオーナーシップ（異種メディア所有）による**新聞と放送の「系列」**関係。全国ネットの民放キー局の数と全国紙の数がぴったり一致する国は世界でも日本以外にはない。
- 新聞は「国民の知る権利」を保障する**知的著作物**との名目で、書籍とともに独占禁止法の唯一の適用除外になっている全国一律の**新聞価格の再販維持**問題。マスコミは報じないが、この再販制の維持のため、新聞業界幹部と政治家とのさまざまな形の接触や政治的な取引が見られる。
- 西側先進国では、政府から独立した委員会が権限を持っている**放送の免許制度**は、日本だけ唯一、**政府（総務大臣）が許認可権を保持**。電波行政の後進性が指摘されている。
- 日本のマスコミ、とくに新聞記者はほとんどが、新聞社という企業に雇われた**社員記者**。自立したジャーナリストとして扱われることが多い欧米の記者に比べ、最終的には読者・**国民の利益より組織の利益を優先**する傾向が強い。

◇ 日本新聞協会や新聞・放送各社はそれぞれの倫理綱領などで「**真実の追求**」や「**権力からの独立**」等を掲げ、民主主義社会を支える担い手としての使命、役割をうたっています。もちろん、個別にはその使命に沿った優れた報道があり、地道に真実を追い続ける立派な記者もいます。

そこで大切なのは、マスコミの問題に国民が目を見せみんなで声を上げることです。一方、マスコミには、冒頭に掲げた「**プロフェッション**」の職責に沿って、記者クラブ制度など自らの問題についても隠さずにきちんと報道する**公共的な責任**があることは言うまでもありません。

＜「日本のマスコミの特異な体質と構造」の参考文献・論文など＞

1 - 2 ページの図表や解説には主に次の文献や論文を参考にしました。

1. L.アン・フリーマン『記者クラブ—情報カルテル』（橋場義之訳、緑風出版 2011）
=英語版 *Closing the Shop: Information Cartels and Japan's Mass Media* （2000）

2. 上出義樹・修士論文「マス・メディア報道における『自己規制』の可視化—外部から見えない日本の特質とそのメカニズム」（上智大学大学院・2012年提出）

アン・フリーマンは、幼少時代を日本で過ごした体験も生かし、日本のマスコミの特異なシステムに鋭いメスを入れたことで知られる米国の女性研究者です。特に、さまざま実例や具体的な資料などを挙げての記者クラブ制度の研究では日本人の学者を飛び越えて、研究者の間では最も高い評価を得ています。

1 ページで大きく取り上げた①（新聞）「協会」②メディアグループの「系列」③「記者クラブ」—は、その頭文字を取って「**3つの K**」と呼ばれており、日本のマスコミの既得権益や特権体質の温床である「**情報カルテル**」を支える悪しき3大要素です。

日本のマスメディアの特異な体質と構造の核心とも言えるこの「**3つの K**」を造語したのは彼女であり、欧米のメディアには顕著には見られない**既得権益を守るための極めて日本的なシステム**を「**情報カルテル**」と名付けのも、この米国人女性学者です。

上出の修士論文でも、アン・フリーマンの「**3つの K**」のことを引用しているほか、マスメディアの日本的な特質や問題点について詳述しています。

（かみで・よしき）北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士課程（新聞学専攻）在学中。